

2019年(平成31年)3月5日(火)

4種の米を試食する中郷用土地改良区の白井幸太郎理事長(右から3人目)ら＝三島市芝本町で



三島・中郷に新ブランド米を

富士山の伏流水が水源の源兵衛川の水を農業用水としている三島市中郷地区に新たなブランド米を誕生させようと、地区で昨年試験的に育てた4品種の米の試食会が4日、同市芝本町で開かれた。2022年ごろの新ブランド米発売を目指す。ブランド米開発は、中郷用土地改良区と、源兵衛川の環境保全をしているグラウンドワーク三島(GW三島)が取り組んでいる。日本たばこ産業植物

4品種の試食会

匂い、固さ、食味論評

イノベーションセンター(磐田市)が1990年代に開発したが、普及していない、いわ

た5号、いわた8号など4品種の種もみの提供を受け、昨年6月に約60平方メートルで田植えし、10月に稲刈りをした。

試食会には改良区とGW三島の役員ら約10人が参加。米粒の光沢を確認し、鼻を近づけ香りをかき、ゆっくりかみしめ味わった。役員らは「匂いはいいね」「食べやすい固さだ」「冷めても食味が良い」などと論評。今年は評価が低かった1種を外し3種を約30アールで栽培することを決めた。

改良区の白井幸太郎理事長(74)は「水の良いい中郷地区で、オンリーワンの米を誕生させたい」と話した。

【石川宏】